2019年10月6日

福音書からのメッセージ

主は言われた。「もしあなたがたにからし種一粒ほどの信仰があれば、この桑の木に、『抜け出して海に根を下ろせ』と言っても、言うことを聞くであろう。
（ルカによる福音書17章6節）

皆さんは、自分の信仰について、どのように思っていますか。信仰という言葉を調べてみますと、「神や仏などを信じること。また、ある宗教を信じて、その教えをよりどころとすること」とあります。ですからイエス様を信じ、その教えをよりどころとすることと言い換えることができるかもしれません。

イエス様の十字架と復活を信じ、ご自分の愛唱聖句を心のよりどころにするという方もおられるでしょう。しかし今日の場面の前に書かれているルカによる福音書の17章1節から4節のような言葉を告げられたら、厳しさのあまり、どうしてよいのか戸惑ってしまうかもしれません。たとえばイエス様は、「一日に七回あなたに対して罪を犯しても、七回、『悔い改めます』と言ってあなたのところに来るなら、赦してやりなさい」と言われます。しかし一回でも心から赦すことができない現実を知っているときに、「はい、許します」と簡単に言えないのです。だから彼らはイエス様に訴えました。「イエス様、わたしどもの信仰を増してください」と。

わたしたちは今、どのような思いでこの言葉を受け止めているでしょうか。それぞれ立場は違います。毎日の生活の仕方も違います。しかしその中で、イエス様の教えをすべてのよりどころにできるのか、厳しい言葉もすべて、よりどころとして歩めるのか。そのように問われたときに、わたしたちはどう応えることができるのでしょうか。「イエス様、わたしどもの信仰を増

してください」、そのように願った使徒たちの気持ちが、よく分かるのではないでしょうか。

しかしイエス様はその願いに対して、このように言われます。「もしあなたがたにからし種一粒ほどの信仰があれば」と。そう言われたときに、再びこの思いにとらわれるかもしれません。「信仰って何？」。

信仰というもともとの言葉には、このような意味もあります。それは「信頼して委ねる」ということ。たとえば海で、水に浮くにはどうしたらいいでしょうか。体の力を抜くのです。すーっと息を吐いて、水の動きに身を委ねるのです。必死に自分の力で浮こうと、バシャバシャしてもいけません。体を硬直させてもいけません。

わたしは神さまとわたしたちの関係も、そのようなものだと思っています。神さまにすべてを委ね、力を抜くとき、神さまは温かくわたしたちを包み込み、導いてくださる。自分の力で許さなきゃ、自分の力でイエス様についていかなくちゃ、必死に手足をバタバタしなくていい。すべてを神さまよろしくと、お任せするのです。

からし種の信仰って、ちっぽけです。よく見ないと分からないかもしれない。でも神さまは、そんな小さな思いを大切にされ、豊かにしてくださるのです。

桃山基督教会

〒612-8039
京都市伏見区御香宮門前町184
TEL/Fax　075-611-2790
メール momoyama.kyoto@nskk.org
＜教会ホームページ＞
http://momoyama.hannnari.com/